

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470800194		
法人名	(有)カナガミケアリンク		
事業所名	グループホーム 花水木		
所在地	宮城県角田市角田中島上170-21		
自己評価作成日	平成28年11月11日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花水木の理念にも掲げている「ゆったり 楽しく 共に寄り添う生活」を日々目指しケアに臨んでいる。自然と身体を動かす機会を取り入れ健康面でも風邪を引かない体力づくりに努めている。日々の中に季節感と刺激を感じて頂けるように行事を企画し入居者、地域、家族の方々と共に楽しむ機会を設けている。また家族との繋がりを大切に自宅へ帰宅・外泊、お墓参り、家族との外出等働きかけ実行している。地域との交流として地域や近隣施設への行事に積極的に参加している。地区の談笑サロンにも2ヶ月に1回参加し同年代の方々と楽しく過ごせる場所がある。入居者の健康管理として主治医の訪問診療が月に2回ある他、週に1回訪問看護が来所し入居者の状態を相談でき、医療との連携を図りつつコミュニケーションが十分に図れることで安心感が得られている。またデイサービスも受け入れており開かれたグループホームだと感じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してから足かけ13年のホーム(1ユニット)は、短期利用共同生活介護1人と3人のデイサービス利用者も受け入れている。同法人のサービス付き高齢者住宅と社員寮が隣接し、行事や緊急時等の協力関係が構築されている。地域との交流も良好で、2ヵ月毎に地区で開催され毎回30~40名集まる高齢者のサロンに入居者も楽しみに参加している。「花水木通信」を回覧したり、地域に開かれたホームを目指しており着々と実践している。人間の赤ちゃん位の大きさのアザラシ型メンタルコミットロボットパロが「ゆうちゃん」と名付けられ、飼い主を認識し静かに反応してくれて入居者の癒しとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 花水木)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に寄り添うケア」を理念として掲げ、スタッフ一人ひとりが「寄り添う」とはどういうことか考え、日々のケアに実践できるよう努めている。定期の勉強会にて理念を振り返り、生きがいのある生活につなげられるようなケアに努めている。地域の一員であることを忘れず交流を図っている。	独自の基本理念を基に年度初めに全員で話し合い、集約して共通目標を作成している。入居者はどんな時に目を輝かせるのか、一人ひとりの声を職員がどう感じ取っているか等を確認し合い個別ケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加している。地区行事の他サロンにもお誘い頂いており定期的サロンには毎回参加して交流の場がある。毎日のゴミ出しや清掃当番等、責任を各自持ち交流を円滑に保てるよう心掛けている。また花水木の行事にも参加を促し互いに交流を図っている。近隣の方に野菜やお花を頂きコミュニケーションを図っている。	地区の総会参加やゴミステーション清掃、年2回のクリーン作戦には入居者も一緒に参加している。管理者が中学校で「介護職の道しるべ」の講話をしたり、保育所の子供達との交流はみんなを笑顔にしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に花水木を理解して頂くために回覧板に花水木通信を入れ見て頂いている。地域の方々の面会、見学では花水木流のゆったりとした雰囲気を見て頂き、ありのままを受け入れお互いが心地よい環境を発信している。デイサービスやショートステイを行っており地域で生活する認知症の方とその家族の方への支援にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施し、ご家族・地域・行政の方々に参加して頂いている。日々の生活の様子や会話に至るまでちょっとした変化も報告し、参加者からの意見を頂きケアの向上の為に活かしている。入居者と一緒にカルタ取りや物作りを行い日頃の関わりの様子を実際に体験して頂くよう内容も工夫している。	運営推進会議録を花水木通信に掲載し、地域の方にも公表している。洪水・水害時のマニュアルを作成するに当たり、メンバーから「どのタイミングで避難するか、より高い場所へ」等の助言をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、助言を頂いている。また実際に入居者の方と関わって頂き理解して頂くようお願いしている。より現場を理解して頂くために一緒に昼食やおやつを摂って頂いている。制度的な事で分からない点は直接連絡を取り、理解できるまで説明して頂いている。	2カ月に1度は窓口へ出向き、花水木通信も手渡しをしている。介護保険の区分変更については、家族に直接話をしてもらっている。市職員の来訪時に、入居者とのふれあいを大切にもらえるよう交流を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則として行っていない。日中玄関の施錠は行なっておらず自由に入出りできるようになっている。家族が安心できる安全な環境を提供し、個別ケアを充実させることで身体拘束をしないケアを実践し、家族の協力の元、入居者が穏やかに過ごすことができている。	勉強会で具体的な禁止行為を確認し合い、身体拘束はしていない。センサーは使用せず、必要な方にはさりげなく鈴の音で工夫している。家へのこだわりが強い方の気持ちに寄り添い一緒に自宅へ行ってみる等、本人の安心感が得られるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体状況を細やかに観察する目を持ち、又、虐待を誘発するリスク等、広い視野で利用者を観察し、スタッフが充分注意を払い防止に努めている。スタッフ同士お互いの言動等注意し、ストレスをため込まないように話し合いの場をもつよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方はいないが市の講習会に参加し学びの機会を大切にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時解約時共に重要事項説明書に沿って一つひとつ説明し、利用者及び家族が納得するまで説明し理解を頂いている。家族・入居者の気持ちや希望を受け止め、不安解消に努め、理解と納得を得ることができている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、重要事項説明書やホーム内に掲示している。また面会や運営推進会議の際にご意見を頂き、ケアに反映できるよう努めている。家族・利用者からの声はスタッフ間で共有し合い、個別ケアとして実施するように意識している。	家族の意見・要望を謙虚に聞くようにしている。昼夜の寒暖の差が入居者の体調の負担にならないよう配慮したり、ポータブルトイレの衛生面での苦情に、対応の内容をきちんと説明して理解を得られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期勉強会に代表の私も出席し、職員一人ひとりの思いを話す機会を設けている。また仕事の内容について見直し、ケアの方向性を統一できるよう“表は家族、裏は介護のプロ”としてのケアを目指している。	職員の年齢層の幅が広いので、それぞれの視点で気付きの幅も広がりがあがる。入居者のゆっくりめの朝食が、掃除等と重なる時間帯の対応について話し合い個別ケアにも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意分野を把握しそれを発揮することでそれぞれが認め合い自信を持った行動に繋げたい。全員がやるべきことと、管理者・ケアマネジャーの仕事を理解してもらい、その分野の報酬に生かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士利用者へ慣れ過ぎない行動・言動はその都度注意し身近なところから見直し続けている。問題になったことは皆にも周知し、意見を問い認識してもらおう。県・市主催の研修会にはなるべく順番で受講を推進している。また法人当グループの活動の話題を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に施設間の交流を図り刺激を受けている。全員参加の月1回の勉強会では介護保険の勉強会、グループホームの問題点・話題となったことは情報漏れしないよう皆で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のバックグラウンドを事前にご家族より伺いそれを参考にしながら本人との会話や表情等を通して情報収集し不安や要望を知り、その方にとって安心できる方法を見つけケアに繋がられるよう関係性を築いている。最初の実調の段階より本人、家族の思いを傾聴し家庭での生活をできるだけそのままに過ごして頂ける環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず花水木を見学して頂き第三者的な立場から様子を見て頂く。あらかじめ利用者本人との話し合いをした後、これまでの生活歴、家での様子を伺いご家族のありのままの思いを伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にとって今一番して欲しい事、必要なサービスは何かを見極め、地域資源の活用やこれまで利用してきた施設との連携を図り対応している。意向を十分に確認し生活の質を向上できる内容となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は表は家族、裏はプロとしての意識を大切にし日常生活の全てにおいて生活の知恵を入居者それぞれから教えて頂き、日々の生活の中で発揮できるよう支援している。介護される立場に固執せず、元気をもらう、笑いあう、一緒に生活する環境で共存している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や訪問診療報告等、本人の近況を報告すると共に、行事への参加や本人と家族の大切な時間を過ごして頂くための具体的な案を提案し、本人の思いを尊重し自宅に帰る等、随時家族と相談し、家族との大切な時間を少しでも多く持てるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通して気軽に会いに来て下さる方を伺い、相手が受け入れて下さるなら行き来できる環境を整え実践している。馴染みの場所へは職員または家族と一緒に出向いたり、知人に会えるよう、家族の協力を頂き支援している。花水木通信や写真等を送り、こちらからも積極的な関係づくりの支援を行っている。	懐かしい友人の来訪やサービス付き高齢者住宅の友人と交流している。かつて会社を経営していた方が、自ら電話をかけて出掛けると今も現役であるかのように社員は温かく接してくれて本人に満面の笑みが見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの居場所や居心地の良い場所を見つけてあげている。交友関係のある方向士居室の行き来が出来るよう支援したり、会話がスムーズに図れるようスタッフ一人ひとり工夫している。意思疎通が困難な方へは本人が喜ぶことを何度もリピートしながら繰り返し満足頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからもデイサービス・ショートステイのご利用を通し一連の流れでフォローし、馴染みの関係を引き続き築けるよう努めている。家族の不安や相談にも応じ、ケアのヒントとしてアドバイスさせて頂き本人がより心地良く生活できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから思いや希望を引き出せるよう会話を図っている他、言葉には表せない行動として表現されているものを察し、受け止めるよう努めている。入居者一人ひとりを見つめ様々な視点を持ってスタッフがそれぞれに思うことをありのままに意見し合い、思いを強制せず本人本位に努めている。	日常的な意向を「申し送りノート」等に記録し、全員参加の勉強会で話し合っている。自宅に置いた自分の物を気にしていたが、家族に迷惑を掛けるのではと遠慮していた事を察知し、帰宅の機会を得て対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	住んでいる環境を知るために自宅へ訪問し、自宅に近い環境を提供したいと思っている。近隣の方々と会話を持てるよう努め把握するようにしている。日々の生活の中で知り得たことは記録に残し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人を良く知るためにコミュニケーションを図り、行動の裏にある思いを考えるように努めている。その人の生活リズムを理解し個別に対応することでこれまでの生活スタイルそのままに過ごして頂き、様々な角度から見ることで心身の変化を受け止め、小さな事でも気づきを大切にスタッフ間で共有し把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知症で人との関わりが少なくなる生活から、花水木で人との関わりのある生活に楽しみを見出し、これまで培ってきた知恵を発揮できるよう努めている。その方の良い部分が発揮されることで自分と向き合える人が居ることに気づき、自分らしさを表現できるよう介護計画を作成している。	全ての根拠となる記録の記載を大事にしている。家族の意向や、日常の記録等を参考にプランを立てている。訪問マッサージを取り入れた結果、身体の運動機能が向上した例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきやありのままの言動を個別記録に残している。また疑問や改善に向けての工夫を申し送りノートを活用し個別の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下、嚥下機能の低下等求められるニーズに対し、柔軟に支援方法を検討・工夫し提供している。本人の希望や行動に応じて気分転換も図れるよう配慮し、思いを尊重し本人が満足して頂けるようケアしている。利用者や家族の要望の実現のため、自宅への帰宅・外泊や馴染みの場所へのドライブ・買い物等の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やサロン等に積極的に参加している。角田中学校や大学生の職場体験・介護等の体験を受け入れ関わる機会がある。金上社員寮には緊急時の協力が頂けるようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり花水木の協力機関へ家族同意の主治医を変更して頂き、24時間体制で緊急時にも適切な処置を受けられている。月2回訪問診療に来て頂き、利用者の状態や特変寺随時相談し適切な判断を頂いている。	受診の結果変化があれば家族に即報告している。家族の付き添いで専門医を受診する場合は、日々の状態のメモを渡している。受診結果は家族から口頭で聞き、申し送りノートに記録し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度Ns.来所し個別に診て頂いて助言・指導頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族・担当Ns・相談員との情報交換を行い状況の把握に努めている。また本人の安心のために面会に出向きコミュニケーションを図っている。混乱や戸惑いが出ないよう早期退院に向け病院側で配慮して下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の希望はもちろん、家族の思いも優先している。医療的な処置が必要な場合は病院での対応になることを説明している他、重度化の場合は今後起こりうるリスクの説明も含め本人・家族へ理解を頂いている。終末期は家族と充分な話し合いをしホームの方針を成文化し説明、花水木で過ごせる場合には受け入れている。スタッフも家族となり、よい終末を迎えて頂ける様統一した意識を持っている。これまでの見取りの経験からケアに対しての思いはより自信に繋がっている。	入居する際に「看取り介護計画書」(指針)を示し、同意を得ている。看取りの連携体制は整っており、家族の協力を得ながら看取りをした事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同系列の勉強会・研修会へ積極的に参加している。利用者も重度化してきている現状もあるため急変時や事故に備えてスタッフ一人ひとりのスキルアップのため、同じ意識で共通のケアの意識に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを確認し、スタッフ全員認識を高め行動できるよう訓練を行っている。夜間スタッフ1人体制の夜勤のため、緊急時社員寮の協力が得られるよう理解頂いている。水害時に関しては現在マニュアル作成中であり地域の方よりアドバイスを頂き、より安全な体制となるよう作成をすすめていきたい。	阿武隈川流域に位置するホームは、他県の事例を参考に水害のマニュアル作成に取り掛かり素案は出来ている。地域は独居の高齢者が多いこともあり、非常時は隣接する法人施設等と協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ってケアに臨んでいる。職員間でお互いの言動を確認し合い注意アドバイスするよう努めている。また馴れ合いの関係になったり、プロの意識としてやってあげるのではなく、一人ひとりの思いを同じ目線で一緒に考え行動することによって、尊厳が守られるよう注意を払っている。	本人のバックグラウンドとこれまでの経歴を参考にしながら、誇りを尊重する丁寧な言葉かけをしている。プライバシーに配慮する場面では小声で耳打ちし、楽しい時はトーンを上げメリハリを心掛けて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心の表現は自由に、危険を伴う物は注意を図り自己決定できるよう努めている。小さな事でも時間をかけ満足感を感じて頂けるようにケアしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合や、決まりに合わせるのではなく、利用者を中心に優先順位を考え柔軟な対応を心掛けている。個々に異なったペースや声掛けの対応にも工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝一番の身だしなみはできるだけ自分で行って頂いている。本人の好みの服を選び、季節感のあるおしゃれを楽しむことができるよう衣替えを行い、その人らしさが保たれるようお手伝いさせて頂いている。スキンケアや化粧、髭剃り等、その人の意向に沿った身だしなみが整えられるよう、好みを周知し個別ケアに活かしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を忘れないようメニューに節の物を取り入れ、食欲と話題が提供できるよう努めている。利用者より昔ながらの作り方を教えて頂いたり、野菜のしたごしらえから片付けまで協力して行っている。嚥下能力に合った食事形態に対応している。	エプロンをして生き活きと食事の準備をしている方もいる。誕生日にはバースデケーキ、仲良しの入居者からの祝辞や孫からのメッセージカード等、笑顔溢れる楽しい時を過ごせるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に配慮し食事形態(刻み・ミキサー・補食等)で対応している。食べる量は個別に体調に配慮し見極めながら配膳している。水分は時間を決め摂取して頂く他、その日の気温や体調、摂取量を把握した上でこまめに摂って頂くよう個別にも支援している。尿量等把握した上で本人の嗜好も視野に入れ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	これまでの生活スタイルに合わせ食後の歯磨き・口腔ケアを実施している。ブラッシング不十分な方へは介助も行っている。義歯使用者は夕食後洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を元に、一人ひとりのパターンの把握に努めトイレ誘導を行っている。排泄の失敗はあるがオムツに頼らず布パンツをはけるような支援を継続し、個々の誘導を行い、自立に向けた支援をしている。	トイレに行くタイミングを見極め、本人の羞恥心に配慮している。出来るだけパッドやおむつに頼らず、ほとんどの方が布パンツを使用できる支援をしている。ポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を多く含む食品の摂取を考へ提供している。水分もこまめに取って頂く他、個々の体調に合わせ、体操や歩行訓練も行っている。排泄記録から排便が無い日が続いた際には腹部マッサージや下剤服薬によるコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	木曜日以外は毎日お風呂を提供している。個々の状況に合わせて入浴のタイミングに気を遣っている。個別に関わりを持って大切な時間としてゆっくりとした一時を過ごして頂けるようリラックスできる空間づくり(音楽を掛けたり、入浴剤使用等)、言葉掛けを行っている。拒まれる方へは声掛けを工夫しアプローチを掛けている。体調や気分が無理強いはいしていない。	デイサービスの利用者がいない木曜日以外は、毎日準備をしている。音楽を聴きながら・歌をうたいながら・入浴剤で香りをと、個々に楽しみながら入浴している。職員と1対1になるので、本音を聴ける時でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や、夜間の睡眠状態、日中の活動時間のバランスを見ながらお昼寝の時間を設けたり、気持ちよく休んで頂けるよう、室温・照明の管理・リネン交換を行っている。寝付けない時は無理強いせず、ホットミルクを提供したり、ゆっくりお話を伺うことで安心して休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を各自共有している。服薬はスタッフが管理しており、1人1人日付・名前の確認をし誤薬防止に努め、手渡し内服するまで見守り内服の様子は訪問診療時Dr.に報告している。症状の変化はすぐにDr.に報告し、指示を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが得意とすること、したいことを大切に役割をお願いしている。役割は強制はせず楽しんで行えるようスタッフも一緒に行っている。さりげない働きかけをすることで自らの意欲を引き出し、そのことで笑顔になれるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物ドライブ等個別で外へ出掛ける機会を設けている。自宅への思いを大切に家族へ相談し帰れるよう実行している。ドライブや散歩、街中の喫茶店や図書館等へ希望を取って出掛ける他、市のイベントへは積極的に参加している。	地域のサロン等の行事へ出かけている。秋晴れのドライブで立ち寄った台山公園ロケットセンターや菓子屋での休憩の写真は笑顔一杯である。家族と一緒に通院時の夕食、美容院、身内との温泉一泊旅行等個別の外出も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持つことで安心される方はこちらで独自の金銭帳を作成し、管理している。好きな物を自分で選んで使える喜びを共有し合えるよう支援している。また必要なものや欲しいものがある時は一緒に買物へ出掛け満足を感じて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ携帯電話の所持や、電話をしたい人へは自由にして頂いている。また遠方に住む家族から電話がかかってくることもあり、家族や友人との関係をこれまで通り築いている方もいる。年始には年賀状を出し一筆添え知人・家族とのやりとりがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明る過ぎず暗過ぎない照明であり自然光も差し込み、庭の木々を眺めることができている。温度は外との差があまりないように配慮している。季節感を花や折り紙の作品を飾り、季節のメリハリをつけた空間づくりに努めている。和室スペースは家族との団らんやお昼寝したり裁縫をしたりと多目的に使用している。デイサービスの人数もある事から談話室を増設し、介護度等配慮し日中の空間の住み分けが出来るよう配慮している。	リビングと並んでいる上り框の和室は、多目的に利用できるスペースである。全体的に落ち着きがあり居心地が良い。広いスペースの「談話室」を増築し、すでに完成している。行政的な許可が下り次第、どのように活用していくのか期待したい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室も自由に使用でき、廊下の端に椅子を配置したり、談話室より外の動きが見え地域性を生かした会話が図れる等気分転換できる場所づくりに心掛けています。仲良しの入居者同士居室を歩き来することもあり居心地の良い場所を個々が理解し活用している。介護ロボットを導入し、利用者に受け入れてもらっている。話や優しさから本心が出て活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真、これまで使っていた物、人形やぬいぐるみ等を持ってきて頂きこれまでの生活と変わりないように安心できる空間作りにも努めている。	居室は和室6、洋室3があり窓から行き交う外の様子や紅葉する樹々が望める。整理箆箭・テレビ等の家具や、愛用のぬいぐるみ・人形等が整然とセンス良く飾られている。自分で掃除をする方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	朝一番の身だしなみはできるだけ自分で行って頂いている。本人の好みの服を選び、季節感のあるおしゃれを楽しむことができるよう衣替えを行い、その人らしさが保たれるようお手伝いさせて頂いている。スキンケアや化粧、髭剃り等、その人の意向に沿った身だしなみが整えられるよう、好みを周知し個別ケアに活かしている。		